

第4回 遊技産業

マネジメント・カレッジ

63人が熱気溢れるディスカッション 「今、必要とされる真の顧客視点とは」



各チームともボードを使い整理しながら討議を深めた

パチンコ・パチスロ新時代に求められる遊技産業の新しいリーダー養成を目指して、日遊協主催「第4回遊技産業マネジメント・カレッジ」が9月9日から11日の3日間、埼玉県熊谷市、ホテル・ヘリテイジと同県嵐山町、共生の森とで開かれた。全国31会員企業から63人の研修生が集まった。研修生たちは業界が直面する問題を共有し、業種を越えた人脈形成を図り、明日の夢を語り合い、業界のリーダーたちと親しく意見を交換した。

今回の研修の基調テーマは「今、必要とされる真の顧客視点とは」。研修の対象はパチンコ・パチスロ産業に携わる中堅管理者で、ホールは店長、マネジャー級、遊技機メーカー、販社等は部課長級となっている。業種別に見ると、ホール33人(16社)、遊技機メーカー19人(9社)、販社4人(1社)、その他4人(3社)、賛助会員3人(2社)だった。

研修は2泊3日の合宿形式で受講費は2万円、日遊協がさらに経費を負担して行われた。最初の2日間は熊谷市のホテル・ヘリテイジが会場で、グループワークとプレゼンテーション、ゲスト講演、



残暑の厳しさにも負けず参加者全員が集合して



懇親パーティーなどで構成された。3日目は同県嵐山町花見台地区の「共生の森」で下草刈りなどの社会貢献活動に汗を流した。

11班に分かれて 粘り強く深夜まで

【第1日】午後1時、開校式が行われ、知念安光・明日の産業創造室長（日遊協理事）が「パチンコ産業はいろいろな問題を抱えている。同じ業を営む者として腹いっぱい本音で語り合って、将来につなげていく話をしてほしい。そして何よりも人脈を広げて、横のつながりをいっばいつくって帰ってください」とあいさつした。

グループワークは11班（1班5〜6人）に分かれて行われた。基調テーマに沿って、①本当の意味での顧客視点とは ②既存顧客視点と新規顧客（ノンユーザー）視点 ③ホールのサービスは過剰か？

不足か？ ④パチンコ産業にとつての顧客とは誰か？——の4つの討議テーマが設定された。班は事前のアンケートを参考に各テーマに関心を持つ者同士で編成され、1テーマに2〜3班が取り組んだ。グループワークは夕食後も再開された。会場が消灯時間となる午前零時まで熱心に続けられ、そのあと場所を変えて午前1時ごろまで討論した班もあった。

深谷会長が激励 「62人の新しい友」

【第2日】午前7時半の朝食後、前日に引き続きグループレークが再開され、昼食後もしばらく班ごとに詰めの議論が活発に行われた。

昼前に深谷友尋会長が合流した。同会長は「多くの仲間から異なった意見を聞き、また聞くだけでなく積極的に質問して議論すること

が大事です。この意見交換はこれからの皆さんの宝になるでしょう。今日ここに来られた皆さんは63人。つまり62人の新しい友人ができたことになる。ぜひ62人全員と名刺やアドレスを交換してください。62人を新たなパートナーとして、これからいろいろなケースで意見交換し、知恵を出し合っていくようにしてください」とあいさつした。

大嶋啓介氏が講演 「人間の可能性」

午後のゲスト講演で、(有)てっぺん代表取締役、大嶋啓介氏が「人間の可能性をどう引き出すか」について講演した。大嶋氏は居酒屋「てっぺん」（東京・自由が丘などに4店）の創業母で、自店の「公開朝礼」はメディアで広く取り上げられている。居酒屋業界の活性化のためにNPO法人「居酒屋甲子園」を設立し、初代理事長として活動した。講演ではとどころで聴衆参加の場を設けながら、自分の体験をもとにユーモアをこめて語った。（大嶋氏の講演要旨は10ページに）

午後4時からプレゼンテーション

意見を説得する側、受ける側とも真剣だ



研修の概要

【第1日】9月9日（木）
開校式／オリエンテーション／グループワーク
夕食／グループワーク
【第2日】9月10日（金）
朝食／グループワーク／昼食／ゲスト講演
プレゼン大会／第3期高原の風の成果発表
懇親パーティ／プレゼン表彰式／開校式
【第3日】9月11日（土）
朝食／バス移動／共生の森で作業／バス移動
ホテル・ヘリテージで解散

ン大会が開かれ、11班が2日間の
成果を発表した。
この後、昨年のマネジメント・

カレッジで
の金賞、銀
賞受賞チー
ムから選抜
された第3
期高原の風
プロジェクト
が
1年間の成

果を発表した。
（第3期高原の風プロジェクトの
発表要旨は8ページに）

「新カードの開発」
金賞に輝いた

午後6時半から、懇親パーティ
ーに移り、深谷日遊協会長、阿部
恭久、山田久雄両副会長、後藤信
行（中国・四国支部長）、知念安光、
吹浦忠正、山口雅弘（九州支部長）
の4理事、平本将人相談役（前会



紅一点の吉田理奈さんがリーダーのH班も意見がまとまった

長）が出席、研修生たちに囲まれ
て懇談した。

最後にプレゼンテーションの表
彰式があり、金賞にG班（タイト
ル「APPLE（アップル）」カー
ドの開発・展開）、銀賞にB班
（同「業界を知らずして顧客を語
るべからず」）が選ばれた。閉校
式のあと、篠原弘志専務理事の中
締めでパーティーは終了した。
（金賞、銀賞チームの発表要旨は
6ページに）

各チームの討論をリードした
井上雄太人材育成委員会委員長



【第3日】

汗みずくになり
カマを振るった
「共生の森」で下草刈り

この日は共生の森（嵐山町花見
台）で下草刈りにチャレンジする、
マネジメント・カレッジの一行56
人は2台のバスで、午前9時前
には現地入りした。薛委員長以下社
会貢献・環境対策委員会11人、ボ
ランティア隊の5人、埼玉森林サ
ポータークラブ（北村博会長）の
13人など総勢93人となった。

深谷会長が「2日間研修ご苦労
様。きょうは自然の大切さをよく
理解して、未来の子供たちのこと
を考える1日にしてほしい」と激
励し、寄居林業事務所の見富篤部
長が、大きなカマの危険のない使
い方を説明し、ハチやヘビへの注
意なども指示した。

共生の森で作業の手順と注意事項を聞くマネカレ参加メンバーたち



厳しい残暑の中でカマを振った



懇親会ではグループ討議の疲れも忘れ談笑の輪ができた



Actionと題したA班の発表も熱がこもる

作業は6班に分かれ、池の両サイドの斜面で、植林した木を傷つけないように、大きな雑草やツルを刈り取る。この日の暑さはまた格別。記録づくめの猛暑の締めくくりのうえ、ここは日本一暑いともいえる熊谷市の近くだ。始めて10分もしないうちに、メンバーたちは汗だくになった。それでもサポータークラブの時には厳しい指導に従ってカマを振るっていった。「2日間のマネカレは正直楽しかった」と言っていた(株)エムズ・ユ一の端本真順さんも「いやあ、暑いです」と汗をぬぐう。それでも作業は急ピッチで進み、「へびも出ましたけど、やはり数は力ですね」(三宝商事(株)加々良修さん)と10時30分には作業終了となった。「みなさま酷暑の中、お疲れさまでした。次は10月30日の第3回植林です。そのときもぜひ」という薛委員長のあいさつのあと、宿舎のホテルへ。そのバスの中で、今回のマネカレの紅一点・吉田理奈さん(株)玉屋)に深谷会長が「しんどかったろう。放心状態じゃないの大丈夫?」とねぎらう。「ハイ」と答えて、疲れた表情の吉田さんもほっとした表情だった。